

改めて 防災を 考える。



防災訓練はなぜ必要なのでしょう。実際に災害に見舞われるまで何もしないということは、いざというときに何をどうしたら良いのか分からない、ということ。また、分かっているつもりでも、実際に経験してみないと分からないことが出てきます。

町では9月3日(日)、防災リーダーが主体となつて、実戦的な防災訓練が行われました。

防災リーダーは、町が実施した「防災リーダー養成講座」を受講し、防災に関する知識を身につけています。

防災訓練では、各避難所までの避難経路等の確認から始まり、避難所での避難所運営訓練・簡易トイレの作り方・段ボール間仕切りの使い方・三角巾の使い方・搬送法などの講習を行いました。

いずれも簡易的な災害グッズではありませんが、実際に避難所生活を送る上で、欠かせないものばかりです。

使ってみると、とても簡単に感じますが、極限の状態でも同じように冷静に対応できるようにしようか。

一度でも、「経験しておく」ということが大切であると感じています。

今回の防災訓練で主体となつた防災リーダーの方々から話を聞きました。

○避難所運営訓練を行い、空間づくりや施設整備、備品などに関する知識が身についたのはもちろん、「要配慮者への気づき」「支援の姿勢」が必要であると感じました。特に妊産婦や高齢者、また身体的な障がいをもたれた方など、外見で配慮が必要だと気づくことができる場合以外に、精神的な障がいや病気など見た目では配慮が必要か分かりにくい場合もあります。声の掛け方や寄り添い方、食事など、細かい点に対する配慮の必要性に気づくことができました。

(防災リーダーの後藤さん)

○避難所運営訓練、防災用品の使用訓練を通して、災害発生時には避難者自身も避難所運営に携わらなければならないという意識を持てたのではないかと感じました。地域に住む方だからこそ気づけることやアイデアがあり、それを共有できる良い機会になつたと思います。

(防災リーダーの平林さん)

参加した町民の方からも感想を聞きました。

○声をかけあう、ということがとても大切だということを知りました。普段からご近所での声かけを心がけ、もしものときには、今日学んだことを活かしたいです。